

か、特に基盤サイドでどう対応していくかという事でございますが、基本は食料自給率の低下そのものには、食生活の変化とか、或いは経済のグローバル化という中で輸入、そういうものが色々ありまして、このような状況になっているわけですが、今あらためて食の安全安心という事を考える時には、生産者と消費者との顔が見える関係、そういうものが大事だと思いません。

そういう意味では、地産地消の促進により、国内生産をいかに図っていくかという事になります。その一番を成すのは、やはり食糧供給基盤の整備が一番大事かと思えます。

そういう意味で皆さん方と共に、これまでこの地域の基盤整備を実施してきたわけですが、一方では先人達の苦労、或いは早くから取りかかってきたという事で相当の農業水利資産が出来上がってきているという実態にあります。

全国的には農業水利施設は約25兆円の資産があると言われますが、その1割以上が新潟県に存在するという事で、これらが適宜、当然更新の時期というものも迎えますし、或いは維持管理していかねばならないという問題があるかと思えます。

そういうことで、今回この親排水機場の更新を終えました。先般は白根郷地区の大規模排水機場の更新も終わりました。一方、これから阿賀頭首工の補修に入るといふ状況にあります。そういう形で適時的確に一方では施設の長寿命化を図りながら、最終的には更新をやつていかなくてはならないと考えております。

現に向けてまして、施策を展開しておられる訳ですけれども、この施策が目指す方向、或いは今後の街づくりというものにつきまして、篠田市長からお願いいたします。

**「キラキラコシヒカリ」で完全米飯給食**

篠田市長 新潟市は日本一の水田面積を持つ大農業都市という事でございまして、水と土の宝物はまずこの農地であるという事なんだろうと思えます。

亀田郷だけでも420ヘクタールという素晴らしい水と土の宝物がある訳ですけれども、それが今、残念ながら生産調整という事で、4割は米作りという面では機能が果たせないでおります。農地を昔のように丁寧にピカピカに磨いて頂けない部分もできております。ここを我々、81万都市という大きな消費地がすぐ側にあるというか、市民が地域の素晴らしい食を味わわせていただくという事で、大きな都市があるその恵みを田園地帯うにしたいです。



伊藤教授

伊藤教授 ありがとうございます。農業生産体制の構築という事は、世界的な食糧事情を考えましたときに、今後非常に重要な課題になってくる問題だろうというふう

に思われます。次に、これから地域が一体となって農地や水を守っていくという事、つま

これに我々は着目をして、新「新潟」モデルというものをこの際作っていく努力をする必要があるのではないかと。我々は米粉米で生産調整を達成するそういう農家に、特に大規模で頑張っている農家に、新潟市独自の助成を乗せし、米農家は相当元気になるのではないかと。

しかし、今、統計を見ると、平場では小農の方のほうで世帯で見ると所得が安定しているという事が間違いない事実でございまして、担い手農家で規模拡大していった農地を持って、個人で或いは法人で頑張っている農家が一番大変な状況になっているので、そこに支援を一定集中しないと私は平場農家、農業が元気になるのではないかと。

明日はまだ暗いかもしれませんが、明後日、その向こうは世界の食糧危機の中で、日本もできるだけ米価を、生産価格を低くして、競争に乗り出していけるというような所に力を注ぐ必要があるのではないかと思っています。

また、来年度は私ども、米農家にとつては画期的な年にしたいです。新潟県、新潟市のように、米粉を既に広く使っている、米粉を消費できる地域というのには、私は一定の特権を受けたいです、私は当然じゃないかと。

その前に加工米に使っているお米は、もの凄いや量を、新潟県・新潟市の

**田園環境都市構想の取り組み**

そうして後、田園型政令指定都市、或いは田園環境都市という言いが方もしておりますが、この田園環境都市というようなものについては、農業だけではこれはできないという事で、私も今、新潟市の都市政策研究所というところで、一緒に農水部、それから公共交通も、田園環境都市を造るのにかかせませんので、公共交通を担当する部・課・それから環境部、そして産業政策課、この4部課が絡になって田園環境都市構想を来年にはしっかりと市民の皆様に見ていただくことか。そしてその時には実践行動計画も作っていただきたいというふうに思っています。

新潟市は今このところ市民、皆マイカー依存が大変強いので、市民の方が移動するときに発生させるCO<sub>2</sub>、これは全国の大き

**亀田郷地域センターの設立**

五十嵐理事長、只今の新潟市は今のところ市民、皆マイカー依存が大変強いので、市民の方が移動するときに発生させるCO<sub>2</sub>、これは全国の大き

五十嵐理事長 土地改良という田んぼを良くする仕事と思われませんか、ここでも、私どもの多面的な活動についてお話をさせていただきます。

実は、昨年10月18日に国交省から全国で初めて環境用水という水利権をいただきました。これは新潟市の方で受けて、管理を亀田郷土地



化学肥料と農薬を慣行使用量の5割以下に抑えて栽培した、環境保全と食味・品質の向上を図ったお米。JA新潟市が取組を進めている。